

Piano Roll (MAM) モード



これがMusic Animation Machine の基本になる表示モードです。左右方向は時間軸（中央から左が過去、中央から右が未来）、上下方向は音程（上に行くほど高くなる）を表わしています。MAMモードでは様々なカスタマイズが可能です。

- note（音の棒）の横幅-----上下キーで変更
- noteの色-----パートごと（楽器やトラックにそれぞれの色を設定）か、ピッチクラスごとか（ドの色、レの色など。詳しくはwww.musanim.com/mam/pfifth.htmを参照）。
【関連項目 [メニュー項目](#)】
- パートごとの色設定-----noteを右クリックして “ adjust color ” を選択。
- “ pitch class（ピッチクラス）ごとの色分け ” のときにどの音をtonic(home key)にするかを設定-----noteを右クリックして “ Set as tonic ” を選択。 そのnoteが青くなる。
- 背景色-----「メニュー > View > Invert light/dark」を選択。（白い紙にプリントアウトしたい時には便利です）
【補足：背景を右クリックで色設定メニューが出ます。】
- noteの開始位置を表示-----「メニュー > View > Note start lines」を選択。

【色変更に関する補足】

- 「色分け方法」の選択にしたがって同一色に設定されているnote（音の棒）がすべて変更される。（ “ partごとの色分け ” なら同一パートの色を一斉変更、“ pitch classごとの色分け ” なら同一ピッチクラスのnoteを一斉変更。）
- 各noteには「普段の色」と「鳴っているときの色」があるので注意。
- たまに選択したnoteとは別のnoteが選択されているときがあるので注意。
- 音がかさなっている場合、長さが違えば縞模様で両方の色が表示されるけれど、だいたいどちらか一方の音の色だけが表示されることになる。MIDIアニメなどで色そのものを見せたいときには調整が必要。
- “ partごとの色分け ” モードで変更された色は、その曲の色設定としてmamxファイルに保存される。
- “ pitch classごとの色分け ” モードで変更された色は、discard（ = 保存せずに廃棄 ）してもMAMplayer内部の色が変更されてしまうので注意が必要。変更しただけでその色。
- “ pitch classごと ” というのは簡単にいうと「ドレミファソラシド + 各黒鍵」ごとという意味です。この色を変更するときには、1オクターブ分の全音階を入力したMIDIデータを用意すると設定が楽。ついでに、「tonic」に指定というのは「どれをドの音にするか」というようなことです（おおざっぱな説明ですみません）。
- このpianoroll（MAMモード）で設定された色が、その他すべての表示モードでも適用される。
- 背景色を変更するとたまにnoteの色設定がおかしくなったりすることがあるので注意（通常色と鳴っている時の色が入れ替わったり）。原因判明。背景色がdarkのとき 鳴っているときの色、背景色がlightのとき 普段の色になるらしい。
- 背景色変更後の dark / lightは背景色として選んだ色の「濃い/薄い」になるもよう。赤 & 緑など、全く別系統の色を指定することはできない。

【どーでもいい補足というかトリビア】

このソフト開発の直接のきっかけになったのは、30年以上前に作者さんが「手描き」したピアノロール譜面だそうです。

作者さんは幅約9cm、長さ約6mのそれを床にひろげて、歩きながら現在位置を指さしていったそうです。